

日本英文学会第83回大会(北九州大学)

2011年5月21日

『母語に活かす英語ライティング指導の試み ーマルチコンピテンス育成を目指してー』

大井 恭子
(千葉大学)

本日の発表の流れ

- I. 日本における作文教育の歴史的概観
- II. 国語教育とPISAショック
- III. 英語ライティングの基本:パラグラフ構造Argumentation
- IV. Multi-competenceという考え方
- V. 実証研究(1):高校教員対象
- VI. 実証研究(2):中学生対象
- VII. 実証研究(3):大学生対象
- VIII. 結論

I.日本における作文教育の 歴史的概観

明治時代:

教育に行ける作文/**実用**=品性を陶冶し他者との意思疎通を図るためのツール。

学問における作文/**教養**=書物を通じて吸収した幅広い知識、思想を定着させる手段。

石川(2010)『「いい文章」ってなんだ?』p.34

3

丸谷才一の言葉から
『日本語の21世紀のために』(文芸春秋)

- 言語は一方において読み書きの道具、つまり伝達の道具です。他方において思考の道具なわけです。それで、明治政府、あるいは近代日本が日本人に対して要求した言語能力というのは、**伝達の道具**としての言語能力を高めることだったわけです。しかし、**思考の言語能力**を高めなければならないとは考えなかった。それが近代日本の言語政策の根本的な間違いだったんじゃないかと、僕は思っているんですよ。

4

丸谷才一(続き)

- そういう明治国家以来の日本語の問題を、一番良くあらわしているのが、**生活の言語**と**思考の言語**が違うことなんです。

⇒ 国家のこれまでの政策は「**生活の言語**」の能力は高めたが、「**思考の言語**」の発達には力を入れなかった

5

大正から昭和初期

「随意選題」:大正時代に芦田恵之助が提唱。綴り方は実用ではなく、「**人格修養**」を主たる目的とする教科なので、教師はまず書こうとする「児童の心を培養すべき」

お手本の模倣や空想による練習を排して、子どもが「**ただ見たまま、聞いたまま、考えたままを書き綴る**」「**子どもらしい**」「**ありのままの真実**を綴る」作文が在野の鈴木三重吉によって提唱された。

6

生活の言語と生活つづり方運動

- 古くは随意選題と呼ばれる作文があり、昭和に入つては無着成恭を初めとする**生活綴り方運動**へと受け継がれていった。
- 戦後の混乱した教育界での教育方法の模索の中で、「**生活綴り方**」が、**自己表現の方法として重視され**、無着成恭の『山びこ学校』(百合出版、1951)の影響が強かった。そして、国語教育の場だけでなく、あらゆる教育の場面で、**生徒の視点で捉えた家庭、社会というものが教材**になるとされた。(参照:秋山他『教授=学習と教科教育』福村出版、1979)

7

戦後の作文教育

占領軍撤退直後:「書く技術の向上を目指した『作文指導』か」vs「ものの見方考え方を含めた**道徳指導と自己表現**を目指す『生活綴り方』が主流になるべきか」の激しい議論

アメリカ式技術法は根付かず「**生活綴り方**」が「**作文**」の名称で復活した。しかし、高度成長期以後は、私的な生活を綴って厳しい現実を直視する生活綴り方はその歴史的使命を終えた。

8

1960年代以降

- **読書感想文**のほか、「運動会」「修学旅行」といった**学校行事が作文課題**として定着した。
 - 平等を理念とする戦後の学校教育では、個々の現実を描いて生活水準の差を明かにするよりも、与えられた課題本の主人公に共感し、その読書体験によって児童が自己変革を遂げるという**読書感想文**と、学校行事の共通体験による心の成長を個々の児童が描写する**行事作文**が主流になった。
- 渡辺雅子『納得の構造』(東洋館出版社)より

9

原行版中学校国語教科書分析結果 まとめ 全9冊(3種類×3学年分)

説明文・論説文の文章末問題 全116問 中:

- 本文から抜き出す問題:21問(約18%)
- 本文の内容の要約・筆者の意見をまとめる問題:61問(約53%)
- 自分の意見や感想・身のまわりの具体例を述べる問題(理由付けなし):25問(約21%)
- その他(図書館や辞書で調べる問題など):8問(約6%)
- **自分の意見を根拠や理由を挙げて述べる問題:1問**(光村図書3年生)



ただし、新学習指導要領が来年度より実施になるので、異なる傾向になることは予想される。

10

高等学校:小論文対策

小論文:1970年代後半全国の大学・短大の入試に広まる。しかし、高校現場での対策は追い付かない。

- **1980年ごろまでの**高校現場では作文や表現指導はほとんど行われていなかった。もっともこれは高校だけの特殊な問題ではない。日本では小中高を通して考えてみても、小学校ががらうじて作文教育を行っている程度で、高校も中学も、表現指導はなおざりにされてきたのである。夏休みに読書感想文を書かせるのが精一杯... 石川(2010)p.184



はたして今現在はどうなのか?

11

II. 国語教育と“PISA ショック”:PISA(OECDによる国際学力到達度調査)⇒(論理的)思考力養成の高まり

I. PISA の結果:「**読解力**」41カ国中、8位(2000)→14位(2003)→『「学力」トップ陥落の衝撃』(朝日新聞2004年12月8日)⇒2009年では回復

II. 新学習指導要領総則

「基礎的・基本的知識・技能の習得の上に、それらを活用して課題を見出し、解決するための**思考力、判断力、表現力**が必要になってくる」新しい知の創造、すなわち「**思考し表現する力の育成**」を各教科を通じて行うことが必要

12

PISAショック後……

戦後の「作文教育」どこに問題があったか
 (『国語教育』2005年6月号)

- 「子供たちに書かせることの多い文章、それは、生活の中の出来事や学校での行事等を取り上げ、一人称で、主に時間的順序で記述した文章、いわゆる**生活文**である」(p. 9)
- 書く力を育てる方法が明らかにされ一般化されたとは言いがたい。(p. 8)

PISA 2000 Questions
 (www.pisa.oecd.org/assess.)

Q2. なぜSophie は広告のことに言及したのですか?

Q3. 二つの手紙のうち、あなたはどちらの考えに同意しますか? 自分の答えを二つの手紙の内容に触れつつ、自分の言葉を使って説明しなさい。

Q4. どちらの手紙の内容にあなたが同意するかどうかは別として、あなたの意見ではどちらの手紙の方がすぐれているとおもいますか? 自分の答えをその手紙の書かれ方に言及して、説明しなさい。

PISAのいう
 reading comprehension=「読解力」
 の定義

- 読解力とは自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力である。』
 (国立教育政策研究所、2002) (下線は筆者による)

読解力=考える力⇒ 論述する力
 英語の**論証文(argumentative writing)**で培うことができるのではないか。

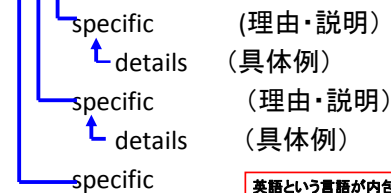
英語ライティングの指導を通じて涵養される
 論理的思考力、批判力とは

- 1) 自分の**アイディア(主張したいこと)**を生み出す力
- 2) その**アイディアを根拠**を示して**説得力**をもって述べる力
- 3) **種類関係**(上位・下位概念)や**抽象(一般)vs具象(特殊)**の関係を理解して用いる力
- 4) **論理関係**を示す語(because, as a result,など)の機能を理解し、それらを有効に使うことができる力
- 5) 他人の話や文章に対して常に「なぜかな?」「本当かな?」という**問いかけ**ができる力

➡ ARGUMENTATION

III. English Paragraph Structure

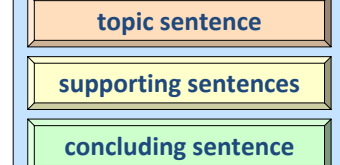
Topic sentence (General) **自分の意見**



英語という言葉が内包している
 論理性・階層性

Understanding the Features of
English Paragraphs

1. Structure of a paragraph



2. Textuality

Cohesion(結束性)
 Coherence(論理一貫性)

質問：

ペット飼うなら
何がいい？



19

ペットにするなら金魚が一番！

理由：

I. 静か (quiet) → 夜騒いだりしない

II. お金がかからない →
1) 一匹 100円
2) 水槽 1000円
3) 金魚のえさは安い

III. 世話が楽 →
1) しつけなくていい
2) 悪さをしない

20

Goldfish

Of all the animals, fish and insects, goldfish make the best pets. **First of all, goldfish are very quiet.** They don't bark, howl, meow, or race around the house at night while you and your neighbors are trying to sleep. **Second, they are economical.** You can buy a goldfish at your local pet store for about 100 yen, and a small bowl for it costs less than 1000yen. Water is free. Also, they eat only a pinch of dried fish food daily, so their food bill is quite low. **Third, goldfish are very well behaved.** They don't have teeth, so they can't chew your furniture. They don't go outside so they can't dig holes in your garden. In addition, you don't have to spend hours teaching them commands such as "Sit!" or "Stay!" **If you want a quiet and economical pet that doesn't cause you trouble, visit your nearest goldfish store.**

(adapted from *First Steps in Academic Writing*)

21

Outlineにすると

Topic sentence:

Goldfish make the best pet.



- I. Quiet
- II. Economical
low price for a goldfish and a bowl
eat only a little
- III. Well behave
don't chew, don't go outside,
no need to teach commands

22

Hinds (1986):

Nature of English Writing

**English
Writer
responsible**

The writer leads the reader to the way the writer intended.

**Japanese
Reader
responsible**

"stepping-stone"---
making the reader
connect the discourse

23

英語(アメリカ英語)の 根本的な考え方 (1)

Tell them what you are going to tell them. Tell them. And tell them what you have told them.

しつこいくらい言う

24

英語(アメリカ英語)の 根本的な考え方 (2)

「論証責任」

= 自分の言ったことに責任をもち、それを相手に納得してもらう。



because

25

IV. Argumentation

Argumentation=主張+根拠

Andrews (2010)

「根拠によってサポートされた論理的なアイデアのつながり」

“a logical or quasi-logical sequence of ideas that is supported by evidence”(p.3)

“argumentation = **generic skills**” (p.5)

誰もが身につけなくてはならない力

26

高等教育におけるArgumentation(論証)の必要性

Why is argument important in higher education?

In many ways, the answers seem obvious. It is important to be able to argue rationally in a civilized society, and students in higher education will be expected to be able to do so....Second, advancement in knowledge often comes via argument. A case is proved; a dispute is opened up and then solved....Third, argument is about clarification as well as persuasion. **Well-argued speeches, essays, position papers, or research papers bring a sharper sense of meaning and significance to an issue.** (p.1)

27

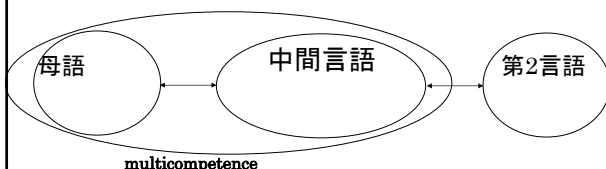
私の学生の例ですが、
英語で文章構成を学ぶと・・・

英文を特徴付けている「**階層構造**」「**結束性**」「**論理的一貫性**」というものに接すると学生たちは英語の文章の持つ明晰性に気づき、そのうち、「**英語のエッセイの書き方を学んだお陰で他教科に提出する日本語のレポートも論理的に書けるようになりました**」というようなコメントする。

Multi-competence

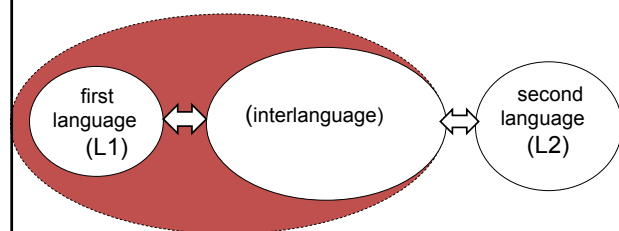
28

VI. Multi-competence という考え方



Vivian Cook (2000)

29



L2 possibly affects both
learners' interlanguage and L1

30

日本語の文章の中にどんどん入っている英語式書き方

もはや、「日本語的書きかた」「英語的書き方」といういいかたはできなくなっている。



CONTRASTIVE RHETORIC という研究はできがたい!

Robert Kaplan (1966) "Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education", *Language Learning*.

English Semitic Oriental Romance Russian



Contrastive Rhetoric という分野の創始

小河原誠著『読み書きの技法』(ちくま新書)

第一章の「パラグラフの理論」では、文章の基本単位として、文ではなく、**パラグラフ**を取り上げる。そして、**パラグラフ**は、**トピック・センテンス**、**サポーターテイング・センテンス**、**論理関係明示子**、**締めくくり文**、**ベクトル**という五大要素から構成されていることを指摘し、その各々についてくわしく説明する。(12頁)

トピック・センテンス(T)
サポーターテイング・センテンス(S)
論理関係明示子(I)
締めくくり文(C)(26頁)

加藤周一『雑種文化』講談社文庫、1974 p.69を使つての分析

「ほんやくで外国の本をよむ利益は、もちろん、外国の原文でよむよりも、くちくちものにならないほど早く、従つて短い時間にたくさん本をよめるという点である。外国語では、全くよめないことが多いし、よめてもおそい。それはかりでなく、わけのわからぬところも少なくない。従つたとせば、日本の学者の理想は、いまでもなく、すべての外国の文献が日本語に訳されているところにある。しかしそんなことは事実上不可能だから、学者はほんやくのあるかぎりほんやくを利用し、ほんやくがなくて必要な文献だけをよむをえす。外国語でよむのだ。学者にかぎらず、すべて短い時間に沢山の本をよもうとする人々、たとえば一定の期日までには何かの報告をしなければならぬ学生にとつて、ほんやくほど有難いものはないだろう。ほんやくは多くあればあるほどよい。というところは、多すぎて迷惑する人間のない以上、いわば自明の結論だろうと思われる。」

さて、この例においては、文1が**トピック・センテンス**であることは明白であろう。著者は、「ほんやくの利益」ということをトピックにしている。文2から文6までは「ほんやくの利益」についての解説であるから、明らかに**サポーターテイング・センテンス**である。文7は、文8によつて「結論だろうと思われれる」と述べられている。だからわかるように、締めくくり文である。そして、文8は「ほんやくは多くあればあるほどよい。」という文7について、これが**結論**であると解説している

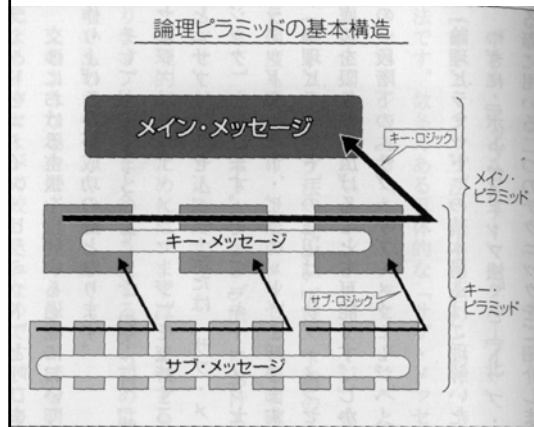
『論理的思考と交渉のスキル』
高杉尚孝(2003)(pp.48-49)

「ロジカル」であるとは、良い交渉を行うためには、相手方の真意を探るとともに、「こちらの主張を相手に理解してもらつたことが必要です。そのためには、ロジカルに話し、かつ各々が望まれます。ロジカル、つまり論理的であることによつて説得力が増し、ひいては相手方にこちらの意図する行動をとってもらうことができます。

…論理的であるためには、まず「明確な主張」があることです。はっきりとした「結論」よく分かる「主張」が論理的であるための大前提となります。

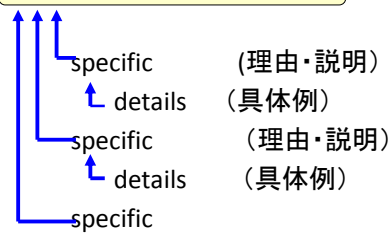
ロジカルが苦手な日本人 (高杉、2003)

ここで、文化論を一つ。もし前述のように「明確な主張をしたうえで、論拠を述べ、そして論拠が主張を正しく支持することが論理的であるための条件だとすると、日本人は論理的であることが苦手だとしても仕方ないと言えます。」
 そもそも日本においては、自分の意見をはっきりと主張する訓練など、学校教育でも企業研修でも十分に受けているとは言えません。発言したとしても、意図的に「お茶を濁す」といって相手に解釈を委ねたりする、何かと無難という風潮さえあります。
 稀にはっきりとした主張が見られる場合でも、主張を支持する論拠がないことが多いです。さらに言えば、論拠がある場合でも、普遍性に乏しく相手に伝わらなことが少なくありません。



English Paragraph Structure

Topic sentence (General) 自分の意見

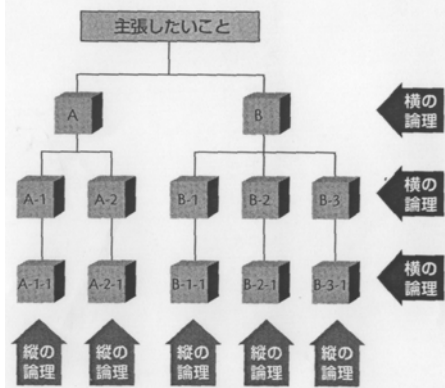


ビジネスの世界では—
President 2010.08.02 号

『英文の型に文章構成を借りよう』

グローバル言語である英語のメールを参考に、日本語ビジネスメールのテクニックを磨く—荒唐無稽と思うなかれ。実はこの手法、非常に理にかなったことなのだ。ビジネスで重要なのは、伝えたいことを相手に正確に伝えることである。英語の文章のフレームワークはこの目的のために練り上げられたもの。(日本語の文章でも)活用しない手はないだろう。

縦横論理の完成型「ピラミッド・ストラクチャー」



高田貴久
『ロジカル・プレゼンテーション』
(英治出版)
p.95

極め付きの例は・・・
東京大学教養学部報(2010/11/4)

高田康成先生の文章

「ほとんど何の感慨もなく」

一年間の海外出張から帰国した(中略)

ほとんどなんの感慨もない。(中略)

アカデミック・ライティング風¹⁾に書くならば、考えられる理由は三つある。第一は・・・

第二には・・・

第三には・・・

そこで、提言

英語でparagraph writing, essay writing、およびreading 全般の学習を通し、argument の基礎を培い、argument とはどのようなものであるか、英語で体得すれば、その力が**multi-competence**となり、**日本語においても必要があれば**、argument がしっかりとした文章が書けるようになるのではないのでしょうか。

43

V. 実証研究(1): 2つの日本語作文の比較 —英文構成法を意識して書かれた日本語作文 と生活文スタイルの日本語作文—

実施日: 2010年10月

参加者: 神奈川県内私立高校教員および千葉県内公立・私立高校教員(様々な科目)86名

方法: 質問紙: 以下の二つの文章をお読みいただき、もし高校入試ということで選抜するのであれば、どちらの生徒の作文の方に高い得点を付けますか? またその理由を簡単に述べてください。

- ・生徒A ・生徒B その理由:

44

日本語の例 (Student A)

・私は中学校で部活を一生懸命やってきました。私はサッカー一部でした。部活の仲間はみんなとても熱心で、とても有意義な時間を過ごせました。顧問の先生もインターハイに出たことのある素晴らしい人でした。クラスの友人や担任の先生も、みんなとてもいい人ばかりで、楽しい学校生活を送れました。また、私は生徒会長を務めました。中学校生活の最大の行事である体育祭、文化祭の計画はとても大変でした。けれど、みんなで協力してでき、心から楽しめたのでよかったです。その時のみんなの笑顔は今でも忘れられません。私は人の笑顔を見ることが好きで、人が笑顔になるととても幸せになります。学校見学の時、先輩方の笑顔がとても素敵で、A高校を受験しようと心に決めました。高校に入っても笑顔で一生懸命に部活や勉強を頑張りたいと思います。特に英語を頑張りたいです。

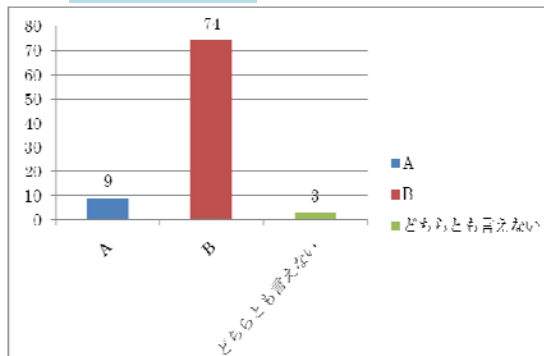
45

日本語の例 (Student B)

- ・私が中学校で頑張ったことは2つあります。1つは部活で、もう1つは生徒会活動です。部活については、私はサッカー部に所属し、一度も休むことなく参加しました。また、他のどのチームよりも動くチームになろうとみんなで努力し、最後の県大会ではベスト4まで進むことができました。次に生徒会活動についてですが、私は生徒会長を務めました。どうすればみんなをまとめ、みんなの笑顔が見られるかを考えた行動を心がけ、体育祭や文化祭といった大きな行事を自分が中心となって計画、運営しました。そして先生や友人から「最高だった」と評価してもらえるような行事にすることができました。最後に高校で頑張りたいことですが、学校見学を通してA高校は部活も行事も盛んだと感じました。高校に入ってもサッカー部・生徒会に入り、部活・学校を盛り上げたいと思います。

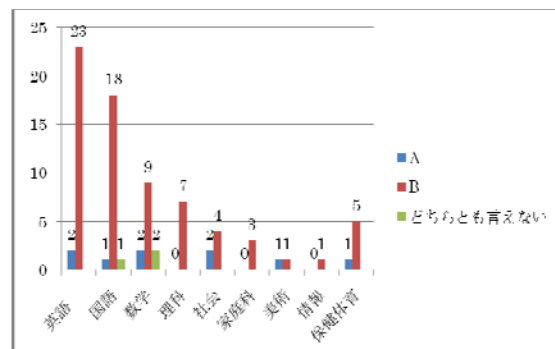
46

全体の結果



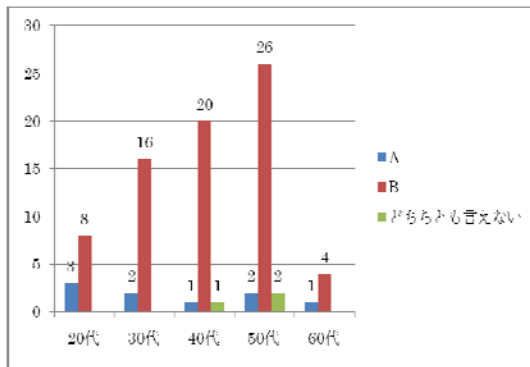
47

先生方の科目による傾向



48

年代別の結果



49

先生方のご意見(抄)

①Aの生徒を選んだ理由

- 生徒Aは**自分の思い**を書かれていて一生懸命頑張ったことや学校見学の感想などが入っていて**気持ちが伝わる**。生徒Bは文章はまとまっていて読みやすいが、**自分の気持ちが入っていない**ように感じる。(保健体育、26歳)
- 文章の構成に幼さを感じるが、生徒Aは高校を受験することを決めた動機や入学後の活動**意欲を生徒Bより強く感じた**為。(社会、51歳)

50

②Bの生徒を選んだ理由:

まず、単純に一度通して読んでみて、スムーズに内容を理解し易かったのが生徒Bの作文です。作文Bは、**最初に項目を明記している**ので、**内容の見通し**がはっきりしています。作文Aは、**ただただ文が書き並べられていて**、見通しが悪く感じました。次に、出来事の結果を**主観的に**表現しているか、それとも**客観的に**表現できているかについて考えました。作文Aは「大変だった」、「良かった」など、**自分の感情で主観的に**表現することが多いです。一方、作文Bは、「大会でベスト4」、「先生や友人に高く評価された」など、**客観的な表現**をしています。作文というのは自己表現も大事ですが、人物を広く深く判断しなければならない入試選抜においては、出来事の結果を**客観的に捉えたうえで自分を主張する姿勢**が、より大切だと私は考えます。上の二つの観点から、私は生徒Bの作文に高い得点を付けます。(数学、29歳)

51

<考察>

日本語の文章も英語の文章も評価基準が似ている！

これは英語の文章構成法からの影響なのか？

52

- 私が中学校で頑張ったことは**2つ**あります。**1つ**は部活で、**もう1つ**は生徒会活動です。部活については、私はサッカー部に所属し、一度も休むことなく参加しました。また、他のどのチームよりも動くチームになるとみんなで努力し、最後の県大会では**ベスト4**まで進むことができました。**次に**生徒会活動についてですが、私は生徒会長を務めました。どうすればみんなをまとめ、みんなの笑顔が見られるかを考えた行動を心がけ、体育祭や文化祭といった大きな行事を自分が中心となって計画、運営しました。そして先生や友人から「最高だった」と評価してもらえるような行事にすることができました。**最後に**高校で頑張りたいことですが、学校見学を通してA高校は部活も行事も盛んだと感じました。高校に入ってもサッカー部・生徒会に入り、部活・学校を盛り上げたいと思います。

意識的に英文構成法をまねた日本語作文

53

Bのアウトライン

I. 中学校で頑張ったこと

A. 部活動

1. サッカー
2. 休みなし
3. 県大会ベスト4

B. 生徒会活動

1. 体育祭
2. 文化祭

II. 高校に入って頑張りたいこと

54

VII. 実証研究(2)

はたして、中学生でもmuticompetence が確かめられるか。

千葉大学教育学部附属中学校 三年生
選択授業

研究題目:

「英語ライティングを通して論理的思考力を身に付けよう」

55

附属中学校での実践例
prompt: 「中学生には自分の部屋が必要だと思いますか？」

<pretest (Student #1)>

状況の説明から始める

If I don't have my room, I don't study. I don't like study in living room because my familys talking there. I have my room. When I studying in my room every night, my familys are talking and watching TV. It's looks very interesting but I have to study.

結局問われたことにこたえていない

56

<posttest>

TS I think Junior high school students have to study in their room. First, there are my family in living room. They talk there. If I going to study English in living room, I don't study. Second, my room is very silent. I can study very comfortably. Final, I study in my room, I can try another thing. If I want to go to bed, I can go to bed quickly. However I study in living room, I can't go to bed quickly.

具体例

I think junior high school students have to study in their room.

結論文

57

Pretest (Student #2) 自分の状況の説明

I have my room and desk. But, I can't study hard. Because, Anyone look at me. I can use call phone and looking TV, reading comics.

I think I don't need my room.

If I go to Juku, I study hard for long time. But in my room, I lose my heart and do other thing.

I want to study hard because I'm third-year-student.

I want to play basketball forever, so I have to study hard and will pass the exam.

主題と関係のない結論

58

Posttest(Student #2)

TS I think that junior high school student doesn't have to have their own rooms. I have two reasons. First, these days we have shorter time with family in a house than in the old days because of work, juku and so on. I think face to face is good thing. Second, if you don't solve the problem in the living room, you can ask your family about problem but in the own room, you can't ask anyone. I think talking with family on the same room is very important thing. Therefore, I think that junior high school student doesn't have to have their own room to do anything.

理由が2つあることを示している

結論文が書けている

59

日本語作文への転移は確認できるか？
課題: 「お金と時間がどちらが大切だと思いますか？」

Student#1 pretest

判断できない
判断できない。理由は、どちらも生きていくには同じくらい大切だから。私はお金をかせげるようになるために、時間をかけて勉強して大学とかを卒業するし、お金をかせげるようになるために、お金をかけたりもする。だから両方と同じくらい大切だと思う。

60

Student #1 Posttest

お金

私はお金の方が大切だと思う。その理由として、お金がなくても生きていけないこともないが、それでは人間らしい生活を送ることができないと思う。

時間も大切だが、時間はお金でかせぐことができる。例えば時間がないときはタクシーなどに乗ってお金を払い時間を短縮することができる。

だから私は時間よりもお金の方が大切だと思う。

61

Student #2 Pretest

お金

お金が大事だと思う。

時間

お金があっても心がなければ退屈な人生で、稼ぐためならなんでもする、買えないものはない、という過激な考え方も出てくるだろう。それで、「時間」のほうが大事な気もする。

時間

しかし、時間を大切にあまり、あくせくとした人生になるのではないか。南の小島サモアの村長が欧州に行ったときのことを語った「パラギ」の本の中では「白人(=パラギ)は時間を分刻み、秒刻みにすることで、彼らは自分が段々年をとっていくことに気付いて悲しくなり、やがて死んでしまうだろう」と村長は語っている。(ちなみに村長は自分の年齢を分かっていない)。

お金

時間を欲しいと思っても、寿命は段々減っていくばかりである。それよりかは、頑張れば一応たまるお金のほうを(節度を持った上で)重要視していたら、あくせくとした一生ではなく、充りのあるものではなからうか。

62

Posttest Student #2

お金

私はお金が大事だと思う。

第一に、時間とは掴みにくいものである。誰も時間を蓄えたりすることは出来ない。これと違い、お金は努力次第では増やすことが出来、貯めることができる。

第二に、時間を過度に気にする傾向が現代人に多い。南太平洋のバヌアツの村長の西洋人体験を綴った「パラギ」では、「西洋人は時間を秒単位で切り刻むことで自らをおいこんでいる」とある。

時間をあまり気にしないことで、ゆったりとした生活がおくれるのではないか。

拝金主義もあまり良くないが、みえない時間に束縛されている方が悲しいことであると思う。

63

実証研究(3) 大学生対象

参加者

国立大学の英語教育専攻の学生11名及び副専攻の学生10名

題材

教科書: 大井・上村・Sano

『Writing Power』(研究社)

その他: 大井(2010)におけるアカデミック・ライティングの定義に基づき、パラグラフ/エッセイ・ライティングの指導に必要なもので授業内容を構成した。一学期間。

Uehara, M. (2011)

英語Prompt:

Write your opinion on the following statement with the specific reasons and examples.

“All high schools should ask their students to evaluate their teachers.”

Pretest: 4月13日、posttest: 7月30日

授業中、35分間、辞書使用なし

分析の方法

I. 量的分析

1. Students' Essays (pre & post)

• holistic scores (based on TWE scoring guide) 1-6

• 総語数

• vocabulary level

2. 論理性自己評価シート(pre & post)

3. A Questionnaire on Students' reflections (post)

II. 質的分析

採点基準

得点

6点：このランクのエッセイは
 一問われていることに対し、的確に答えている。
 一構成も展開もよくできている。
 一自分の意見をサポートしたり、考えを詳しく説明するため適切な具体例を使っている。
 一表現力が十分に発揮されている。
 一時として文法の誤りも見られることもあるが、さまざまな構文が使用され、また用語の選択が適切である。

5点：このランクのエッセイは
 一問われていることに対し、ある程度の確に答えている。
 一構成も展開もおおむねよくできている。
 一自分の意見をサポートしたり、考えを詳しく説明するために具体例を使っている。
 一表現力がかなりある。
 一時として文法の誤りも見られるが、さまざまな構文がある程度使用され、語彙もある程度豊富である。

4点：このランクのエッセイは

一問われていることに対し、的確に答えていない部分が見られる。
 一構成や展開はだいたいできている。
 一自分の意見をサポートしたり考えを詳しく説明するため、具体例は少し見られるが十分ではない。
 一構文や語彙上の選択はその適切さにばらつきがあり、十分とは言えない。
 一時々文法的誤りがあり、それによって意味がよくわからない部分がある。

3点：このランクに入るエッセイには次のような弱点がある。

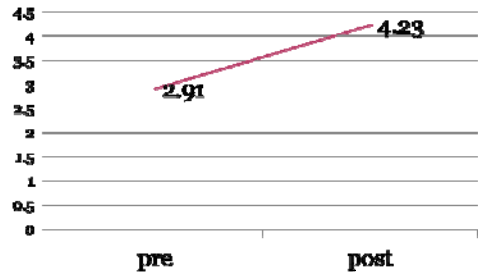
一構成や展開が不適切である。
 一自分の意見をサポートしたり、説明するための具体例を十分に用いていない。
 一不適切な表現や語形が目につく。
 一構文や語法上の誤りがたくさんある。

2点：このランクに入るエッセイは次のような弱点により、大きな欠陥がある。
 一構成や展開ができていない。
 一具体例がほとんど使われていなかったり、関係のない例が使われていたりする。
 一構文や語法上の深刻な間違いが頻繁にある。
 一トピックに対して焦点が合っていない。

1点：このランクに入るエッセイは
 一何が書いてあるのか、意味不明である。
 一展開がまったくできていない。
 一ひどい間違いが大変多い。

0点：次のようなエッセイの場合、得点はゼロである。
 一何も書いていない。
 一トピックをただ写しただけのもの。
 一トピックと関係のないことが書いてあったり、英語以外の外国語で書かれていたり、ただタイプの活字がむやみに並んでいるだけのもの。

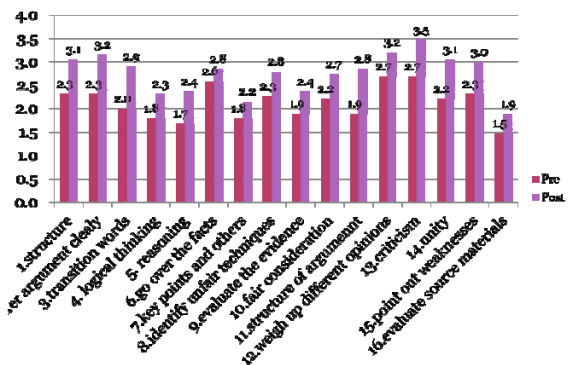
量的分析結果：TWEに準拠した全体評点スコア



論理性自己評価アンケート

- 文章構成において、ある「型」を認識し、それに則って書くことができる。
- 自分のargumentをはっきり示することができる。
- 論証の段階(意見→理由づけ→例示の展開)を示す記号(for exampleなど)の知識があり、それらを効果的に使用することができる。
- 文章を書く際に、「論理的に(筋道立てて)考える」ことができる。
- Argumentを書く際に、「どこが根拠づけとまとめになっているか」を考えることに辛抱強く集中して意識を注ぐことができる。
- 正しい見解に達するためなら、調べ物をするのも苦にならない。
- 文のkey pointを、その他の資料(具体例など)と区別し、書くことができる。
- 読んでいる人を納得させるために、間違った情報を使ったり、こじつけのようなものをしたりしていないかどうかを自分で判断することができる。
- 自分の意見を支えている証拠(根拠)を提示することが容易にできる。
- 自分の信じていること、思っているパターン(例、タバコを吸っている＝不良)が物事に対する公平な判断にどのように(程度)支障をきたすか見当がついている。
- argumentの組み立て方を理解している。
- 異なる意見(考え方)を公平に評価し、考慮することができる。
- 「これを言ったら悪者扱いされるのでは？」という思いをせずに批評することができる。
- argumentにおいて、一貫性がない部分(またはそれを崩している部分)を見つけることができる。
- 友人が書いた文章の不確かさ(根拠不足など)を恐れずに指摘できる。
- 文章の根拠の元になっている資料、データの見極め方・評価法を知っている。

論理性自己評価シート



質的分析—case study

Point 1:

Argumentation (論証) が明示的であること

Student #7

<Pretest>

主張は書かれているが、主張を支える理由が1つで、理由を支える主観的な例示ばかりが書かれている。

<Posttest>

主張が明確であり、理由が2つ述べられている。それぞれの理由に関して客観的な例示が述べられている。

Student #7

<Pretest>

T Thesis statement(主張)
R Reason(理由)
I Illustration(例示)

I think all high schools don't have to ask students to evaluate their teachers, because most students don't answer their real impressions. When I was a high school students, some teachers asked us about their classes. But, many students don't think about classes seriously. So most of us didn't have opinion. Perhaps, some students couldn't answer, since they were afraid of teachers.

Few students tell their opinion. So it may be no use asking students to evaluate. But, if students can tell their real impressions about their teachers and classes, it will work well to improve teachers' skill and quality of classes.

So teachers need to change those situation before asking students.

<Posttest>

These days, some schools ask students to evaluate their teachers. For example, teachers give students paper written some questions. In my opinion, it is necessary for all high school to introduce this evaluation system for two reasons.

First, it gives students opportunities to tell teachers their opinion. It is a little difficult for students to convey teachers what they think. Since, most students are afraid of teachers getting angry or feeling bad due to this. Moreover, teachers are older than them, so students hardly tell their teachers what they think about the classes face to face. Therefore, teachers should give students the opportunity.

Second, teachers can't evaluate their own class by themselves. Students who take many classes every day would be good at evaluating teachers by comparison with other teachers. Students often talk about their teachers with friends: "he is pooring at teaching", "his class is understandable", and so on. If teachers know students' true opinion, they can realize something wrong with themselves. This will improve their skills.

In conclusion, all schools should ask students to evaluate their teachers. For teachers, listening their students' opinion is duty. Nowadays, more and more schools introduce this system. It is important for both teachers and students to improve quality of the classes.

Point 2: 論証が演繹的で、逸脱がないこと

・分析方法

Inner-argumentation analysis (Oi, 1986; 1996, pp.85-87)

For

Against

Neutral

Student #7

<Pretest>

第3パラグラフのBut以下から最初の主張と変わってしまい、論理の一貫性を失っている。

<Posttest>

essay全体を通じて主張が一貫している。

Student #7

F For
A Against
N Neutral

<Pretest>

A I think all high schools don't have to ask students to evaluate their teachers, because most students don't answer their real impressions. When I was a high school students, some teachers asked us about their classes. But, many students don't think about classes seriously. So most of us didn't have opinion. Perhaps, some students couldn't answer, since they were afraid of teachers.

F Few students tell their opinion. So it may be no use asking students to evaluate. But, if students can tell their real impressions about their teachers and classes, it will work well to improve teachers' skill and quality of classes.

N So teachers need to change those situation before asking students.

<Posttest>

F These days, some schools ask students to evaluate their teachers. For example, teachers give students paper written some questions. In my opinion, it is necessary for all high school to introduce this evaluation system for two reasons.

F First, it gives students opportunities to tell teachers their opinion. It is a little difficult for students to convey teachers what they think. Since, most students are afraid of teachers getting angry or feeling bad due to this. Moreover, teachers are older than them, so students hardly tell their teachers what they think about the classes face to face. Therefore, teachers should give students the opportunity.

F Second, teachers can't evaluate their own class by themselves. Students who take many classes every day would be good at evaluating teachers by comparison with other teachers. Students often talk about their teachers with friends: "he is pooring at teaching", "his class is understandable", and so on. If teachers know students' true opinion, they can realize something wrong with themselves. This will improve their skills.

F In conclusion, all schools should ask students to evaluate their teachers. For teachers, listening their students' opinion is duty. Nowadays, more and more schools introduce this system. It is important for both teachers and students to improve quality of the classes.

Point 3: パラグラフ、エッセイの構成がしっかりしていること (適切なつなぎ言葉の提示を含む)

Student #7

<Pretest>

・パラグラフに分かれているが、それぞれのパラグラフが、Introductory paragraph, Body paragraphs, Concluding paragraphの特徴を有していない。

(日本語の意味段落のような感覚で改行しているに留まっている。)

・接続詞以外のつなぎ言葉が使用されておらず、論理の展開が分かりにくい。

<Posttest>

・それぞれのパラグラフが、Introductory paragraph, Body paragraphs, Concluding paragraphの特徴を有しており、essayの構造に則って書かれている。

・Body paragraph 1では、topic sentenceとsupporting sentencesがきちんと区別されており、抽象と具象、意見と事実の階層化ができています。

※Body paragraph 2に課題が残る。

・First, Second, Moreover, Therefore, In conclusion, といったつなぎ言葉が使用されているため、論理の展開が明確になっている。

Student #7

<Pretest>

I think all high schools don't have to ask students to evaluate their teachers, because most students don't answer their real impressions.

When I was a high school students, some teachers asked us about their classes. But, many students don't think about classes seriously. So most of us didn't have opinion. Perhaps, some students couldn't answer, since they were afraid of teachers.

Few students tell their opinion. So it may be no use asking students to evaluate. But, if students can tell their real impressions about their teachers and classes, it will work well to improve teachers' skill and quality of classes.

So teachers need to change those situation before asking students.

<Posttest>

Intro These days, some schools ask students to evaluate their teachers. For example, teachers give students paper written some questions. In my opinion, it is necessary for all high school to introduce this evaluation system for two reasons.

Body1 First, it gives students opportunities to tell teachers their opinion. It is a little difficult for students to convey teachers what they think. Since, most students are afraid of teachers getting angry or feeling bad due to this. Moreover, teachers are older than them, so students hardly tell their teachers what they think about the classes face to face. Therefore, teachers should give students the opportunity.

Body2 Second, teachers can't evaluate their own class by themselves. Students who take many classes every day would be good at evaluating teachers by comparison with other teachers. Students often talk about their teachers with friends: "he is pooring at teaching", "his class is understandable", and so on. If teachers know students' true opinion, they can realize something wrong with themselves. This will improve their skills.

Conclu In conclusion, all schools should ask students to evaluate their teachers. For teachers, listening their students' opinion is duty. Nowadays, more and more schools introduce this system. It is important for both teachers and students to improve quality of the classes.

Point 4. 客観性のある文章

Student #7

<Pretest>

- ・自分の高校時代の例を最初に挙げていることで客観性に欠けてしまい、説得力が弱い。

また、impressionというあいまいな語を使用している。

- ・“I”で始まる文: 2

<Posttest>

- ・自分の経験ではなく、一般的な具体例を挙げているため、説得力がある。

また、opinionという客観的な語を使用している。

- ・“I”で始まる文: 0

Student #7

<Pretest>

I think all high schools don't have to ask students to evaluate their teachers, because most students don't answer their real impressions.

When I was a high school student, some teachers asked us about their classes. But, many students don't think about classes seriously. So most of us didn't have opinion. Perhaps, some students couldn't answer, since they were afraid of teachers.

Few students tell their opinion. So it may be no use asking students to evaluate. But, if students can tell their real impressions about their teachers and classes, it will work well to improve teachers' skill and quality of classes. So teachers need to change those situation before asking students.

<Posttest>

These days, some schools ask students to evaluate their teachers. For example, teachers give students paper written some questions. In my opinion, it is necessary for all high school to introduce this evaluation system for two reasons.

First, it gives students opportunities to tell teachers their opinion. It is a little difficult for students to convey teachers what they think. Since, most students are afraid of teachers getting angry or feeling bad due to this. Moreover, teachers are older than them, so students hardly tell their teachers what they think about the classes face to face. Therefore, teachers should give students the opportunity.

Second, teachers can't evaluate their own class by themselves. Students who take many classes every day would be good at evaluating teachers by comparison with other teachers. Students often talk about their teachers with friends. "he is pooring at teaching", "his class is understandable", and so on. If teachers know students' true opinion, they can realize something wrong with themselves. This will improve their skills.

In conclusion, all schools should ask students to evaluate their teachers. For teachers, listening their students' opinion is duty. Nowadays, more and more schools introduce this system. It is important for both teachers and students to improve quality of the classes.

大学生の英作文の結果:

量的にも質的にも向上が認められた。

⇒では、日本語作文はどうか？

日本語作文はどのように量的に採点し、質的に分析したらよいのか？

作文と小論文の違い:『カラー版新国語便覧』(2011) p.396

「作文は自分を見せるもの、小論文は読み手を説得するもの」

日本語作文

日本語作文Prompt:

「義務教育である小・中学校を、週6日制に戻そうとする案があります。この案について、具体的な例や理由を示しながら、あなたの考えを述べなさい。」

これは(多分)「小論文」というジャンルになる。

小論文に求められる力
『カラー版新国語便覧』(2011)

- ①理解力: 何が問われているかを理解すること
- ②発想力: **客観的な根拠**に基づいたさまざまな観点からの柔軟な発想
- ③構成力: 内容に応じた**効果的な構成**
- ④文章表現力: 情的・主観的でなく、明快で**客観的な表現力**

(この中には以下のような力も含まれる)

主題や理由(根拠)には反対意見もある。予想される反論を述べ、それをさらに強力な主張で論駁し、主題への信頼を増幅させる配慮(反論への顧慮)取り入れることも有効である。

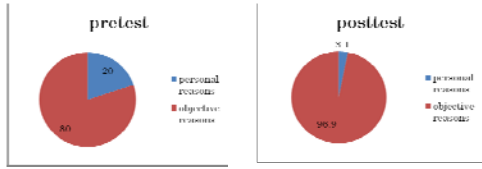
日本留学生試験日本語記述問題
得点基準

得点	基準
50点 (レベルS)	課題に沿って、書き手の主張が、説得力のある根拠とともに明確に述べられている。かつ、効果的な構成と洗練された表現が認められる。
45点 (レベルA)	課題に沿って、書き手の主張が、妥当な根拠とともに明確に述べられている。かつ、効果的な構成と適切な表現が認められる。
40点 (レベルB)	課題にほぼ沿って、書き手の主張が、おおむね妥当な根拠とともに述べられている。かつ、妥当な構成を持ち、表現に情報伝達上の支障が認められない。
35点 (レベルC)	課題を無視せず、書き手の主張が、根拠とともに述べられている。しかし、その根拠の妥当性、構成、表現などに不適切な点が認められる。
30点 (レベルD)	書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
25点 (レベルE)	書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
20点 (レベルF)	書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
15点 (レベルG)	書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
10点 (レベルH)	書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
5点 (レベルI)	書き手の主張や構成が認められない。あるいは、主張や構成が認められても、課題との関連性が薄い。また、表現にかなり不適切な点が認められる。
0点 (NA) *	採点がなされるための条件を満たさない。

レベル A, B, C については、同一水準内で上位の者と下位の者を区別して得点を表示する。

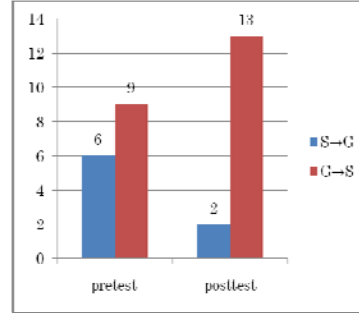
1 理由づけに関する分析

個人的なエピソードに基づく主観的理由づけ(personal reasons) vs 客観的事実に基づく理由づけ(objective reasons) の割合



2 論証のパターンに関する分析

specific⇒general (個別が先、総括があと) vs. general⇒specific (総括が先、個別があと)



質的分析:

Student 1 Pretest

学校の必要性の説明が不十分

自分の経験を述べるにとどまっている

主張から逸脱している

あいまいな記述で終わっている

週6日制に戻すという案は、よいものであると思います。ゆとり教育が見直され、遅れを取り戻そうとする流れの中、時間を増やすことによって子供たちの勉強量を増やすことも、授業の質を上げることも可能になるのではないかと思います。昨今は塾などで忙しい子どもたちが増えているようですが、学校できちんとした指導をすれば、塾は必要ないではないでしょうか。自身も実際に週6日制と5日制の両方を体験した世代ですが、時間をうまく使い、楽しく学校生活を送っていたのは週6日制の時だったように思います。しかし、週6日制に戻すという、子供たちはあまりいい反応をしないだろうと思うので、実行するには少々難があるだろうと思います。もし実行できたなら、日本の児童の学力水準の上昇に効果があるのではないのでしょうか

Student 1 Posttest

公教育の必要性の根拠を基礎、授業料、学校でできない活動の側面から述べている

pretestと同じだが、きちんと比較できている

自分の経験から6日制の利点を述べている

私は、週6日制に戻すことに賛同します。近年子どもたちの学力低下やゆとり教育の見直しなどの教育会の動きを見て、今子どもたちに必要なのはきちんとした公教育なのではないかと思いました。最近では塾通いに忙しい子どもたちが多いようですが、基礎を学ぶのは学校であり、そこでの教育がしっかりしていれば塾に通う必要もなくなる可能性もあります。週6日制にして授業料を増やせば、子どもたちの理解力を伸ばすことにつながるのではないかと思います。塾や予備校は多くの資金を必要とするのに対し、学校は一定の授業料で好きなだけ勉強をすることができる点を踏まえて、子どもたちは学校での勉強を第一に考えるべきであり、そこで問題が生じたなら、そのサポートをしてくれる場として塾を利用するという姿勢であるべきだと思います。実際に、いくつかの進学校では独自に週6日制を導入しており、成果を上げているように思います。高校だけでなく小・中と週6日制にすれば、トータルでの勉強時間は相当なものになり、様々な知識を得たり、学校でできないアクティビティを体験することも可能になります。また、友人や教師と時間を共有することで良い信頼関係を築くこともできるのではないのでしょうか。現在の週5日制から週6日制にすることに、子どもたちは反感を持つかもしれませんが、先々のことを考えれば学校で勉強する時間が増えることで得るメリットは大きいと思います。落ち込んでしまった学力の水準を上げるためには、週6日制を導入し、子どもたちに質の良い教育を提供する環境をつくるのが一番の方法であると考えます。実際に週6日制と週5日制の両方を経験した立場からすると、週6日制であった時はかえってメリハリがある生活を送っていたような気がします。オンとオフを切り替えながら学習を進めることで、子どもたちのやる気を引き出すことも可能なのではないのでしょうか。以上の理由で、私は週6日制を再び取り入れるべきだと思います

再度主張を整理している

Student 2 Pretest

自分の経験を述べた後に理由が述べられているので、理由がかりつらい、次の段落も同様である。

私は小・中学校を週6日制にするという案に賛成です。私は今年の春から個別指導塾でバイトをしています。生徒たちに学校での授業の様子をきくと、学校の先生は説明が不十分で次々に先へ進んでしまっていて、初めは先生たちがもっとうっかりすべきだと思っていましたが私が塾で使っているテキストを見ると学校の先生がそのような指導になってしまうのも仕方ないと思いません。小・中学校では履修の範囲が広がり1年で教える必要はないことが多すぎるからです。小学校の生徒が回りもみんな塾に通っていると言っていたのもそれが理由なんだと思いました。私は義務教育で教える必要はない範囲が増えたのなら、当然授業の回数も増やすべきだと思います。

また、休みの日は1日中家にいて、特に何もせずに過ごすという生徒もたくさんいます。学校に行けば必然的に外へ出るようになるし、放課後外で遊んだりする機会も増えると思うので、週6日制にすることで学習面以外でもプラスになることがあると思います。確かに週5日制で学校に通っている子どもたちにとっては、週6日制になることは苦痛かも知れませんが、必ず慣れてくると思うより質の高い授業が受けられるので、私は義務教育の小・中学校を週6日制にしたほうが良いと思います。

Student 2 Posttest

義務教育である小・中学校の指導では、近年「ゆとり」が提唱され、具体的な指導要綱としても、高校で習ったことを中学で、中学で習ったことを小学校で学ばないように移行措置がなされ、その結果として小学校の教科書は2倍以上の厚さとなっている。学ぶことが増えたのに対し、学習時間が変わらなかったら、シラバスの内容を履修しきれない、もしくは内容の濃いものになることは明らかである。なので私は週6日制に戻すという案を支持します。

理由の根拠を多く説明している

自分の塾での経験を文書化した具体的な事例として引用している

まず、もしも週5日制を維持していたら、教諭は生徒たちに全て教えずなくてはならないということと時間がという点に追いつけ、もちろん忙しくなると思う。しかし、そのことを受けて、一番困るのは生徒たちである。現在、小・中学校は週5日制だが、一部の私立学校は週6日制を採用しているところもある。そんな中で学習指導要綱の内容が増えたら、公立学校の生徒と私立学校の生徒の学力の差は歴然とするのではないだろうか。そして高校や大学を受験するとき、同じ土日で私立学校の生徒と公立学校の生徒の戦い、結果は目に見えている。塾に通わせるという方法もあるけれど、それでは家庭の経済力による差が影響するため不公平ではないだろうか。週6日制にすることで、公立学校の授業の質も良くなり、そのことは生徒の将来のためになるだろう。

次に、最近の中学生は外で遊ぶよりは室内でゲームをすることを好む傾向があるように思われる。私がアルバイトをしている塾の生徒も、遊びと言えばテレビゲーム、という考えを持つ子が多く、外で遊ぶというよりは、暇なだけゲームをする方が、少なくとも家でゲームをしているよりは能力は落ちない。他にも、外遊びによって子どもたちが得られるものはとても多いと思う。そこで、週6日制にすることで、子どもたちを外に出す機会が増え、子どもたちの健康を促進することにつながるのではないかと、学校に行くということは、単に勉強することが目的ではない。学校に行くことで人と触れ合い、体を動かして、心身ともに健康になれる。週1日だけ学校に行く日が増えたけど、1年を通して考えれば、丸1ヶ月分多く学校に行っていることになる。そう考えれば子どもたちに何らかの影響を考えると私は明らかだ。

したがって、教師のためだけでなく、児童のために、小・中学校は週6日制にしたほうが良いと思う。

結論・まとめ

1. 英語の論理は、日本語の文章の中に、好むと好まざるとにかかわらず、深く入ってきているという現実がある。(contrastive rhetoric の終焉?)
2. 日本語の文章、ことに小論文と英語の論証文の評価基準はよく似通っている。
3. 英語のライティングの中で英語の論証スタイルを体得すると、その力を含めたマルチ・コンピテンスが形成され、日本人学習者は必要に応じて日本語の文章においても論証スタイルが必要な文章においては、英語で培ったその力を発揮して説得力のある文章を書けるようになるのではないかと、考えている。

論証スタイル⇒Universal Rhetoric

論証スタイル⇒

Universal Rhetoric

そして、この力は、日本語であれ、英語であれ、また書き言葉であれ、プレゼンであれ、生徒・学生の生涯にわたる力となるべきものと、考える。

⇒empowerment!

参考文献

- Andrews, R. (2010). Argumentation in higher education.
- Cottrell, S. (2005). *Critical Thinking Skills*. Macmillan.
- Kaplan, R. (1966). Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education. *Language Learning*
- Uehara, M. (2011). A study on the effect of academic writing instruction for Japanese university students. An unpublished master thesis submitted to Chiba University.
- 石川巧 (2010)『「いい文章」ってなんだ?』ちくま新書
- 稲賀敬二、他 (2011)『カラー版新国語便覧』第一学習社
- 大井恭子(2002)『英語モードでライティング』講談社インターナショナル
- 小河原誠(2005)『読み書きの技法』ちくま新書
- 高杉尚孝(2003)『論理的思考と交渉のスキル』光文社新書
- 渡辺雅子(2005)『納得の構造』東洋館出版社

Oi, Kyoko(1999)“Comparison of argumentative styles: Japanese college students vs. American college students”, *JACET Bulletin*, 30,85-102

大井恭子(2002a)。「思考力育成のための作文教育－外国語としての英語教育からの知見－」『千葉大学教育学部研究紀要第50巻』,pp245-260

大井恭子(2002b)。「『英語モード』でライティング ネイティブ式発想で英語を書く」, 講談社

Oi, Kyoko (2005) “Teach English arguments using Toulmin Model”, *JACET Bulletin*, 41, 123-140

大井恭子「英語ライティングを通じて、思考力、論述力を見につけよう」、『英語教育』2008年3月

「母語をも抱合したマルチコンピテンス涵養のための英作文指導に関する研究」(2009) 平成19～20年度科学研究費補助金(萌芽研究)成果報告書(課題番号:19652053)

研究代表者: 大井恭子

94

Thank you!

95